

令和7年度 シラバス

教科	技術・家庭	科目	(技術)	学年・類型	1年	必修・選択	単位数(週時数)	1
教科書	技術・家庭 技術分野 (開隆堂)							
副教材等	技術・家庭ノート 技術分野 (四国地区中学校技術・家庭科研究会編)							

学習の目標	材料と加工の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、材料と加工の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるようにします。 生活や社会の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだして、設定した課題を解決し、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術を工夫し創造しようとするようにします。
学習の方法	生活の中から課題を見つけ、実践的活動の中で自ら解決する力を身に付けましょう。 積極的に授業・製作に取り組み、知識や技能を習得しましょう。
評価の規準	1 知識・技能 材料と加工の技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、生活を向上するために進んで実践しようとする。 2 思考・判断・表現 材料と加工の技術に関わる問題を見いだして、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 3 主体的に学習に取り組む態度 よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術に関する課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
評価の方法	定期考査及び、ノートなどの提出物の他、製作品、製作活動、主体的な授業への取組などを、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価します。

	単元	主な学習内容
1学期	・ガイダンス 「技術の授業を知ろう」 ・情報 情報社会と自己責任 ・材料と加工の技術 材料の特徴、製品の設計	・学習目標や学習方法について学びます。 ・情報モラルや個人情報の保護に関する事柄を学びます。 ・身の回りにある様々な材料の特徴を学びます。 ・製作品の構想を図に表す方法を身に付けます。
2学期	・材料と加工の技術 製品の製作 けがきをしよう 材料を切断しよう 部品を正確に仕上げよう 組み立てよう	・製品の製作において、目的に応じた工具や工作機械の使い方について知り、正確でかつ安全な作業ができるようにします。(さしがね、のこぎり等を使います。) ・加工した部品を製作手順を考えながら、正確に組み立てができるようにします。
3学期	・材料と加工の技術 製品の製作 製品を仕上げよう ものづくりと環境について	・塗装の目的を知り、ていねいな作業ができるようにします。 ・正しい知識を身に付けます。 

令和7年度 シラバス

教科	技術・家庭	科目	(家庭)	学年・類型	1年	(必修)・選択	単位数(週時数)	1
教科書	技術・家庭 家庭分野 (開隆堂出版)							
副教材等	技術・家庭ノート 家庭分野 (四国地区中学校・家庭化研究会 編)							

学習の目標	家族・家庭の機能について理解し、家族や地域の人々と協力・協同して家庭生活を営む必要性について考えます。 衣服の適切な選択・計画的な活用と手入れ、基礎縫いの知識と技術を身に付けます。 住まいの基本的な機能について理解し、安全で快適な住空間の整え方を身に付けます。
学習の方法	忘れ物のないように準備をして授業に臨みましょう。 教科書や家庭科ノート、学習プリントを中心に各単元の内容を学習します。 自分の身の回りの生活に目を向け、問題意識を持って学習に臨みましょう。
評価の規準	1 知識・技能 家族・家庭生活、衣生活、住生活についての基本的な知識を習得している。 基礎的な縫製技術、住空間の整え方が身に付いている。 2 思考・判断・表現 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、課題を解決する力を身に付けている。 3 主体的に学習に取り組む態度 家族・家庭生活、衣生活、住生活について、意欲と関心を持って主体的に取り組んでいる。
評価の方法	定期考査及び、実習における習熟度、ノートなどの提出物のほか、主体的な授業への取り組みなどを、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価します。

	単元	主な学習内容
1学期	・家庭分野のガイダンス A 家族・家庭生活 1 今の自分とこれから B 衣食住の生活 1 衣服のはたらきと手入れ 2 衣服の選択と着方	家庭分野での学習を確認し、自分の成長とこれからについて考えます。 目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の適切な選択について学習します。衣服材料に応じた日常着の手入れや補修について理解するとともに、基礎縫いなどを身に付けます。
2学期	A 家族・家庭生活 2 家庭のはたらきと家庭の仕事 3 様々な家族・家庭 4 幼児の生活と家庭 5 幼児が安心できるかかわり 6 かかわり合う地域と家庭 7 持続可能な家庭生活	幼児の心身の発達と家族の役割、遊びの意義について学習します。地域の人々や高齢者との関わり方について考えます。
3学期	B 衣食住の生活 1 人間にとっての住まい 2 生活に必要な住空間 3 自然とともにある住生活 4 安全で健康的な住生活 5 持続可能な住生活	住まいの基本的なはたらきについて学習します。安全で快適な住空間の整備に関する具体的な整え方を理解します。

令和7年度 シラバス

教科	技術・家庭	科目	(技術)	学年・類型	2年	必修・選択	単位数(週時数)	1
教科書	新しい技術・家庭 技術分野 (開隆堂)							
副教材等	技術・家庭ノート 技術分野 (四国地区中学校技術・家庭科研究会編)							

学習の目標	生物育成とエネルギー変換の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習を通して、生物育成とエネルギー変換の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるようにします。 生活や社会の中から生物育成とエネルギー変換の技術に関わる問題を見いだして、課題を設定し解決したり、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成とエネルギー変換の技術を工夫し創造したりするようにします。
学習の方法	生活の中から課題を見つけ、実践的活動の中で自ら解決する力を身に付けましょう。 積極的に授業や製作・栽培に取り組み、知識や技術を習得しましょう。
評価の規準	1 知識・技能 生物育成やエネルギー変換、情報に関する技術についての関心を持ち、生活を向上するために進んで実践しようとする。 2 思考・判断・表現 生物育成やエネルギー変換、情報に関する技術に関わる問題を見いだして、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。について、課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。 3 主体的に学習に取り組む態度 よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成やエネルギー変換、情報に関する技術に関する課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
評価の方法	定期考査及び、ノートなどの提出物の他、製作品、製作活動、主体的な授業への取組などを、「生活や技術への関心・意欲・態度」、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価します。

	単元	主な学習内容
1 学 期	・生物育成の技術 作物の生育と栽培技術を知ろう 栽培計画を立て作物を育てよう 生物育成技術を有効に活用しよう	・それぞれの作物の育つ過程を知るとともに適した環境について学びます。 ・簡単な野菜を育てます。(ペットボトル栽培) ・環境と技術の関係に着目し、自分たちにできることを考えます。
2 学 期	・エネルギー変換の技術 わたしたちの生活エネルギー 電気をうまく使う方法を調べよう 目的に応じた回路設計をしよう 電気エネルギーの変換と利用方法を調べよう エネルギー変換を利用した製品をつくろう エネルギーを有効に活用しよう	・エネルギー資源の生かし方を調べます。 ・電気の基礎的な知識を身に付けます。 ・回路図のかき方を理解し、目的に応じた電気回路の設計ができるようにします。 ・電気エネルギーを変換するしくみを調べます。 ・製品の製作において、目的に応じた工具や工作機械の使い方について知り、正確でかつ安全な作業ができるようにします。 (はんだごて、ニッパ、ドライバーなど) ・環境と技術の関係に着目し、自分たちにできることを考えます。
3 学 期	・情報の技術 計測・制御のプログラミングによる問題解決	・計測・制御システムの仕組み、安全・適切な製作や ・計測制御システムの構想と情報処理の手順。



令和7年度 シラバス

教科	技術・家庭	科目	(家庭)	学年・類型	2年	必修・選択	単位数(週時数)	1
教科書	技術・家庭 家庭分野 (開隆堂出版)							
副教材等	技術・家庭ノート 家庭分野 (四国地区中学校・家庭科研究会 編)							

学習の目標	食事の役割や、栄養素について理解し、自立した食生活ができるようにします。 日常食の調理と地域の食文化についての知識と技術を身に付けます。 金銭管理と購入、消費者の権利と責任、消費生活と環境について持続可能な社会の構築に向けて必要な知識と技術を身につけます。
学習の方法	忘れ物のないように準備をして授業に臨みましょう。 教科書や家庭科ノート、学習プリントを中心に各題材の内容を学習します。 調理実習は、グループで協力して積極的に取り組みましょう。 自分の身の回りの生活に目を向け、問題意識を持って学習に臨みましょう。
評価の規準	1 知識・技能 食生活、消費生活についての基本的な知識を習得し、食品の適切な取り扱い方、基礎的な調理技術、金銭の管理方法や消費行動の必要性について理解している。 2 思考・判断・表現 食生活の改善や献立の作成、消費生活について課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 3 主体的に学習に取り組む態度 よりよい食生活、消費生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
評価の方法	定期考査及び、実習における習熟度、作品、ノートなどの提出物のほか、主体的な授業への取り組みなどを、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価します。

	単元	主な学習内容
1学期	B 衣食住の生活 1 食事の役割と食習慣 2 中学生に必要な栄養を満たす食事 3 さまざまな食品とその選択	食事の役割や健康と食事とのかかわりについて理解しよりよい食生活の方法を考えます。栄養素の種類とはたらきや食品の栄養的特徴について学習します。 食品の品質を見分け、用途に応じて選択し、安全と衛生に留意して食品や調理器具等の適切な管理ができるように学習します。
2学期	4 日常食の調理 5 地域の食文化 6 献立づくり 7 持続可能な食生活	調理実習を通して、食材の扱い方、調理方法などの知識や技術を身に付けます。 食生活に関心をもち、日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動を通して、地域の食文化について理解します。
3学期	C 消費生活・環境 1 家庭生活と消費 2 購入・支払いと生活情報 3 消費者被害と消費者の自立 4 持続可能な社会	物資とサービス、消費生活のしくみを学習し、計画的な金銭管理の必要性について考えます。 売買契約について問題発生の原因や予防方法についての理解を深め、消費者の権利と責任について考え、自立した消費者を目指します。

令和7年度 シラバス

教科	技術・家庭	科目	(技術)	学年・類型	3年	必修・選択	単位数(週時数)	0.5
教科書	新しい技術・家庭 技術分野 (開隆堂)							
副教材等	技術・家庭ノート 技術分野 (四国地区中学校技術・家庭科研究会編)							

学習の目標	情報の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習を通して、情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるようにします。 生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして、設定した課題を解決し、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造しようとするようにします。
学習の方法	生活の中から課題を見つけ、実践的活動の中で自ら解決する力を身に付けましょう。 学習活動に積極的に取り組み、知識や技能を習得しましょう。
評価の規準	1 知識・技能 情報の技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、生活を向上するために進んで実践しようとする。 2 思考・判断・表現 情報の技術に関わる問題を見いだして、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 3 主体的に学習に取り組む態度 よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術に関する課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
評価の方法	定期考査及び、ノートなどの提出物の他、製作品、製作活動、主体的な授業への取組などを、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」、の3つの観点から総合的に評価します。

	単元	主な学習内容
1 学 期	・情報の技術 生活や社会を支える情報の技術を考えよう。	・情報の表現の特性等の原理・法則と基礎的な技術の仕組みについて学びます。 ・技術に込められた問題解決の工夫を学びます。
2 学 期	・情報の技術 ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題を解決しよう。	・情報通信ネットワークの構成、安全に情報を利用するための仕組みを知り、動作の確認ができるようにします。
3 学 期	・情報の技術 社会の発展と情報の技術について知ろう。	・生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術についての知識を身に付けます。

令和7年度 シラバス

教科	技術・家庭	科目	(家庭)	学年・類型	3年	必修・選択	単位数(週時数)	0.5
教科書	技術・家庭 家庭分野 (開隆堂出版)							
副教材等	技術・家庭ノート 家庭分野 (四国地区中学校 技術・家庭科研究会 編)							

学習の目標	4年生時の家庭基礎における調理実習で着用するエプロンと収納用の巾着袋を製作し、製作の楽しさを知るとともに被服製作やミシン活用の知識や技術を身に付けます。 また、ポケットに各自がデザインした刺繍をすることにより、オリジナルの実用的な衣服を製作するとともに、手縫いの基礎的な技術を身に付けます。
学習の方法	忘れ物のないように準備をして授業に臨みましょう。 ていねいに製作に取り組み、授業時間内に完成させましょう。
評価の規準	1 知識・技能 ミシンの使い方や衣服製作、衣服の構成についての基本的な知識を習得し、ミシン縫いや手縫いにおける基本的な技能が身に付いている。 2 思考・判断・表現 製作を能率よくきれいに進めることや、課題の実践を評価したり、改善したりして自分なりの工夫がみられる。 3 主体的に学習に取り組む態度 エプロンの製作や課題の解決に主体的に取り組んでいる。
評価の方法	定期考査及び、実習における習熟度、作品、ノートなどの提出物のほか、製作計画・実践記録を通して主体的な授業への取り組みなどを、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価します。

	単元	主な学習内容
1学期	B 衣食住の生活 (衣生活) 3 生活を豊かにするものの製作 エプロン製作 (1) 衣服の構成を知ろう (2) 手順の確認 (3) ミシン縫い (ボタン付け・基礎縫い) (4) ミシン縫い (ポケット作り)	衣服の構成、布の扱い方、作業道具の扱い方を学びます。 安全に能率よく作業できるよう製作計画を立てます。まち針の打ち方、ミシンの使い方などの技術を高めます。
2学期	(刺繍 ポケット) (5) ミシン縫い (ポケット付け) (6) ミシン縫い (裾縫い) (7) ミシン縫い (腰ひも付け)	オリジナルのデザインを考え、刺繍を施して個性を表現します。 曲線、直線など部位に応じた縫い方と縫い代の始末をします。
3学期	(8) 仕上げ 4 持続可能な衣生活	気候や風土による衣服の着方を学びます。 残布の有効利用と資源や環境に配慮した衣生活について考えます。

令和7年度 シラバス

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年・類型	4年	必修・選択	単位数(週時数)	2
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)							
副教材等	家庭科ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会編) 調理実習ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会編) 生活ハンドブック (第一学習社)							

学習の目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
学習の方法	教科書や家庭科ノート、副教材を中心に各単元の内容を学習します。 調理実習では、1時間でできるスピード献立の実習をします。 家庭クラブ活動やホームプロジェクトの実践を通して、家庭や地域の中で広く学習します。 日頃から身の回りの生活に目を向け、問題意識を持ちながら学習に臨みましょう。
評価の規準	1 知識・技能 家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 2 思考・判断・表現 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 3 主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
評価の方法	定期考査及び、実習における習熟度、課題、ノートなどの提出物の他、主体的な授業への取組などを、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価します。

	単元	主な学習内容
1学期	1章 生涯を見通す 2章 人生をつくる 6章 食生活をつくる ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	それぞれが「自分らしく生きる」・「共に生きる」ために、結婚や家族・家庭、職業生活などについて学習します。 誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて考えます。食生活では、栄養や食品について学び、実習を通して調理に関する知識や技術を身に付けます。
2学期	9章 経済生活を営む 10章 持続可能な生活を営む 7章 衣生活をつくる 3章 子どもと共に育つ	経済生活では家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理の必要性、消費者保護の仕組みについて学習します。持続可能な社会をつくるための環境に優しい消費行動の在り方について学習します。衣生活では、人と衣服のかかわりを見つめ、素材や手入れについて学習します。乳幼児の発達の特徴を踏まえ、関わり方を学習します。社会全体で子育てを支援する方法を考えます。
3学期	4章 超高齢者社会を共に生きる 5章 共に生き、共に支える 8章 住生活をつくる 11章 これからの生活を創造する	高齢期を安心して生活するためにはどのような社会を実現すればよいか考え実践しようとする態度を身に付けます。住生活では、快適で安全な住まいについて考えます。

令和7年度 シラバス

教 科	家庭	科目	フードデザイン	学年・類型	6年人文 必修・選択	単位数(週時数)	2
教科書	フードデザイン Food Changes LIFE (教育図書)						
副教材等	調理実習ノート基礎編 (愛媛県高等学校家庭科教育研究会編)						

学習の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに、食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質、能力を身につける。
学習の方法	教科書や調理実習ノート、学習プリントを中心に学習します。 学んだ知識を生かし、技術の向上につながる実習を行います。 身の回りの食に関する情報に目を向け、問題意識を持ちながら学習に取り組みます。
評価の基準	1 知識・技能 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。 2 思考・判断・表現 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決できる。 3 主体的に学習に取り組む態度 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価の方法	定期考査及び、実習における習熟度、ノートなどの提出物の他、主体的な授業への取組などを、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価します。年間では、各学期の成績を総合して年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1学期	第1章 健康と食生活 (1) 食事の意義と役割 (2) 食を取り巻く現状 第2章 栄養素と食品 (1) 栄養素と消化・吸収 (2) 各栄養素のはたらき	食事の意義と役割、食を取り巻く現状を学習します。 栄養素の働き、消化・吸収のしくみについて学びます。 学んだことを生かし、ホームプロジェクトを実践します。
2学期	第3章 食品の選択と取り扱い (1) 食品選択のこつ (2) 食品の衛生と安全 (3) 食品の安全を考えて選ぶ 第4章 調理してみよう (1) なぜ調理するのか (2) 調理操作と調理器具 第5章 各国料理とコーディネート (1) 料理の様式 (2) テーブルコーディネート	食品の加工、食品の選択と取り扱いについて学びます。 調理の基本である調理の目的、調味操作について学び、ライフステージと栄養計画について学びます。 日本料理・西洋料理・中国料理の献立と食卓作法、テーブルコーディネートとサービスの実習について学びます。
3学期	第6章 食育と食育推進活動 (1) 食育推進の取り組み (2) 食文化を見つめる (3) 食と環境について考えよう	食育の意義、家庭や地域における食育推進活動について理解を深め、地域の課題を発見し、その解決に向けて主体的かつ協働的に取り組みます。

令和7年度 シラバス

教科	家庭	科目	保育基礎	学年・類型	6年人文 必修・選択	単位数(週時数)	2
教科書	保育基礎 (教育図書)						
副教材等							

学習の目標	家庭生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を身につける。
学習の方法	教科書や学習プリントでの学習とともに、保育所訪問、幼児食実習、児童文化財製作実習などを行います。テレビ、新聞などの乳幼児に関するニュースなどに関心を持ち、問題意識を持ちながら学習に臨みましょう。
評価の基準	1 知識・技能 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。 2 思考・判断・表現 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決できる。 3 主体的に学習に取り組む態度 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
評価の方法	定期考査及び、実習における習熟度、ノートなどの提出物の他、主体的な授業への取組などを、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価します。年間では、各学期の成績を総合して年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1学期	1章 子供の保育 2章 子供の発達 ＜夏休み＞ 家庭クラブ「保育所訪問への参加」	保育の意義、方法、環境について学びます。 子供の発達の特性、乳幼児の発達、幼児期の発達について学びます。 保育園訪問により、発達の違いなどを観察し、子供とのかかわり方を考えます。
2学期	3章 子供の生活 ＜幼児食実習＞ 4章 子供の福祉 ＜児童文化財製作実習＞	乳幼児期の生活と養護、生活習慣の形成、健康管理と事故防止について学習します。 児童観の変遷、児童福祉の理念と関係法規・制度、子供の福祉を支える場を具体的な事例を通して学びます。
3学期	5章 子供の文化	子供の文化の意義、子供の遊びと表現活動、子供の文化を支える場について、有効な活用方法について考えます。